

ジュネーブ条約追加議定書二〇周年の今年 無防備平和構築の国際シンポジウム開催

一九七七年にジュネーブ条約追加議定書が締結されて今年は三〇年になります。この間既に二六〇を超える世界の国々が加入し、戦争の違法化と世界平和の全身に大きく貢献してきました。一八六四年以来のジュネーブ条約の歴史の中で、単に戦争のルールを定めた交戦法規から戦時平時を問わぬ国際人道法として発展し、その役割は一層大きくなって来ています。わが国においては、有事法制の成立以降戦争国家への急速な傾斜の中で、軍民分離原則に基づく軍事物の撤去を要求し地域から平和を実現していく無防備地域宣言の取り組みが大きく広がっています。

今日の世界で、武力によらない平和な社会建設の試みは、決して平和憲法を持つ日本に特有のものではありません。軍隊廃止をめざして国民投票に持ち込んだ「軍隊のないスイス運動」や、イラクで国際法蹂躪の戦争を進めるアメリカ国内でも多くの州で住民投票に

よるイラク反戦決議を勝ったアメリカ・フランス奉仕委員会の取り組みがあります。またフィリピンミンダナオ島では政府軍もイスラム武装勢力もいずれも排除したヒースジーンを建設する運動など、世界各地にさまざまな武力を排除し武力によらない平和の構築の取り組みがあります。それらはジュネーブ条約の条項に拠つたものであるか否かは別にして、いずれも住民みずから立ちあがり自分たちのすむ地域を平和な地域にしていこうとしていることに共通性があります。これこそ、グローバル資本主義の戦争と収奪に対抗する民衆の力でしょう。

追加議定書二〇周年記念する国際シンポジウムは、こつた世界各地の武力によらない平和の構築の取り組みを交流し、更なる運動の発展をはかるうとするものです。既に国際シンポジウム実行委員会が結成され二〇十七札幌準備が開始されています。七月

二十九日、札幌を皮切りに国内3、4箇所での開催が予定されています。札幌には前述のアメリカ・フランス奉仕委員会(AFSC)、ミンダナオ島ピースフーン運動、ロベルト・レイソン神父の参加が予定されており、国内からは東京造形大前田朗教授、前国立市長上原公子さんなどの参加が決まっています。国内ですでに20自治体に及んでいる無防備地位宣言条例化の運動との交流も大きな成果が期待されます。

また、シンポジウム前日には全国の無防備平和条例化の運動に取組んだ仲間や、道内の地域平和運動に取組む人たちとの全国交流集會も開催さ

れます。今秋、九月〜一〇月に予定されている札幌市の直接請求署名に向けて、大きな弾みになることと思います。北海道における無防備平和地域運動の飛躍点になることと思います。

全国から多くの仲間の参加でシンポジウムの成功と札幌市条例化運動支援拡大を勝ち取って行きたいと思えます。広く参加を呼びかけます。

7/28(土) 全国交流集會(PM)、
レセプション(夕刻)
会場はいずれもグランドセンター(札幌)
7/29(日) 国際シンポジウム
(13時~16時半)
札幌市教育文化会館)
参加費: 1000円

神奈川シンポジウム(川崎市)も予定
しています。

8/4(土)5(日) 東京シンポジウム
(東京 全国交歓会)

海外からの招請を初めシンポジウムの成功のために
皆様に広く賛同をお願いしています。賛同金 1口
1000円で賛同をよろしくお願ひいたします。

(振込先) 郵便振替~口座番号: 00990-6-0203555
加入者名: 無防備地域宣言